

チャペル週報

No.20

2018.10.29 ~ 11.1

希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。
聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、
旅人をもてなすよう努めなさい。

(ローマの信徒への手紙 12章12 ~ 13節)



西宮上ヶ原キャンパス ランバス記念礼拝堂

関西学院宗教センター

☆ チャペル・スケジュール ☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

10月29日(月) 神 田村 久瑠美 (神学研究科M2)

経 音楽チャペル ゴスペルクワイア"P.O.V."

人 宗教総部

理 前川 裕 (宗教主事)

聖和 聖書物語「あわれみ深いサマリヤ人」

10月30日(火) 神 Petra von Gemünden (アウグスブルグ大学)

文 上ヶ原ハビタット

社 「よりよい社会」とは? ⑧ 石田 淳 (社会学部教授)

法 アジア学院

経 舟木 譲 (宗教主事)

商 音楽チャペル バロックアンサンブル

国 世界市民となるために 高村 峰生 (国際学部准教授)

理 前川 裕 (宗教主事)

総 武井 真紀子 (アジア学院卒業生インターン)

教 Daniel H. Dellming (高等部教諭・宣教師)

10月31日(水) 院 Andreas Rusterholz (文学部宗教主事)

神 宗教改革記念日礼拝 土井 健司 (神学部教授)

社 「障害者が大学で学ぶ権利とそれを支えるコミュニティについて」
(人権を考えるチャペル)

松岡 克尚 (学生活動支援機構総合支援センター長)

法 Christian Morimoto Hermansen (宣教師)

経 邑久光明園活動報告 宗教総部

商 水野 敬三 (商学部教授)

人 宗教改革記念日を迎えて 嶺重 淑 (宗教主事)

理 前川 裕 (宗教主事)

総 村瀬 義史 (宗教主事)

教 梶原 直美 (宗教主事)

11月1日(木) 聖和 児童虐待防止オレンジリボン運動に賛同して

波田 埜英治 (准教授)

「死者とのコミュニケーション」―「諸聖人の日」(All Saint's Day)

山本 俊正

私の好きな恋愛映画の一つに「ゴースト」という作品があります。1990年代にメガヒットした映画です。ストーリーでは、強盗に襲われて命を落とした主人公の男が、幽霊（ゴースト）となって恋人の前に現れ、自分を殺した犯人を彼女に伝えようとします。しかし彼女には彼の存在が見えません。語りかけられても聞こえません。幽霊の男は、自分の声を聞く事の出来る霊媒師と出会い、彼女の力を借りて恋人とコミュニケーションをとります。私たちも日々の生活の中で、「死者」と話したり、「幽霊」とコミュニケーションを取ることは不可能に近いと考えています。「幽霊」（ゴースト）の存在証明はアカデミックな科学の世界では、議論されることさえないでしょう。しかし、「死者」や「幽霊」の存在は現実の生活習慣やサブカルチャー、私たちの身体的実感に深く入り込んでいます。

私たちは死者を用います。葬送儀礼を持たない社会集団は存在しません。それは実際に誤った喪の儀礼をすれば、死者が怒り、蘇ってきて近親者に祟りや呪いをもたらすと考えているからです。死者が何もしないことを頭で解っていても、どこかで、死者とのコミュニケーションが成立していることを感知し、死者のリアクションを心配しているのです。

死者を記念する行事は社会・文化的特徴の中で多様な形式と宗教的色彩を持ちながら実施されています。キリスト教においても長い伝統があります。紀元4世紀頃からイエス・キリストの生涯を想起する諸行事と共に殉教者を覚える記念礼拝や儀式が加わりました。「諸聖人の日」(All Saint's Day)もその一部です。諸聖人の日は、カトリック教会では祝日の一つで、聖人や殉教した人々を記念する日です。開催されるのは毎年11月1日です。また翌日の11月2日は教会の典礼暦で「死者の日」としています。亡くなったすべてのキリスト者を記念します。日本の「お盆」にも似ていて、カトリック教徒の中には「諸聖人の日」にお墓参りをする人もいます。関学が関係学校になっている日本基督教団（日本で最大のプロテスタント教会）では「永眠者記念日」を毎年11月最初の日曜日に設定しています。なお、魔女やお化けに仮装した子どもたちが「トリック・オア・トリート」(Trick or Treat.)、「お菓子をくれないと悪戯するぞ」と唱えて、近所の家を1軒ずつ訪ねるハロウィーンは、「諸聖人の日」の前夜、"All-hallow Evening"を語源としています。これも「死者」とのコミュニケーションの一つかもしれません。

(商学部宗教主事)

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。【どなたでもご自由にご参加ください。】

(17:50～18:20 1405教室)

11月主題:「真の共生社会を目指して」

11月1日(木) 舟木 讓(宗教総主事)

8日(木) 井上 智(神学部助教)

15日(木) 山本 俊正(商学部宗教主事)

22日(木) 舟木 讓(宗教総主事)

29日(木) 嶺重 淑(大学宗教主事)

●第214回ランパス演奏会 クアクレとヴァイオリンによる「ラトビア伝統音楽の調べ」

昨年好評を博しましたラトビアの伝統音楽の調べ、さらにレパートリーを拡充して開催いたします。ラトビア人は別名「歌う民」。古来より日々の生活、年中行事と冠婚葬祭、めぐる季節や美しい大地を歌で表現し伝えてきました。伝統的な民謡、大切に歌われている合唱曲を、クアクレとヴァイオリンで演奏します。

溝口明子/クアクレ 秦 進一/ヴァイオリン

と き:11月8日(木)17:00開演

ところ:ランパス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主 催:宗教センター <入場無料>

●大学主催秋季人権問題講演会「終わっていない原発避難」

2011年3月、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が起こり、大勢の人が避難指示を受けて、あるいは事故による放射能汚染を懸念し、遠く離れた場所に避難をしました。本講演では、そうした避難者が直面した事実の一部を紹介し、みなさんに考えていただく機会としたいと思います。

◆2018年11月14日(水)15:10～16:40

場所:メアリー・イザベラ・ランパスチャペル(西宮聖和キャンパス)

◆2018年11月15日(木)

場所:Ⅱ号館201号教室(神戸三田キャンパス)11:10～12:40

場所:関西学院会館「光の間」(西宮上ヶ原キャンパス)15:10～16:40

◆講師/松田曜子(長岡技術科学大学准教授)

*本講演会では手話通訳・パソコンテイクによる情報保障を予定しています。また、録音、録画を行い図書館資料として保存しますのでご利用下さい。

●オルガン音楽の泉 2018 Fall semester

パイプオルガンの響きに想うお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

第29回 11月16日(金) 坂倉 朗子(本学オルガン講師)

第30回 12月5日(水) 桑山 彩子(京都カトリック河原町教会オルガニスト)

いずれも12:50～13:20[開場12:40予定]

ところ:関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主 催:宗教センター

●「関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール」チケット販売のお知らせ

恒例の関西学院最大のクリスマスイベントが大阪のザ・シンフォニーホールで開催されます。参加費は宗教活動委員会を通して関連団体に献金させていただきます。

と き:12月21日(金)17:30開場 18:30開始 20:50終了予定

ところ:ザ・シンフォニーホール(大阪市北区大淀南2-3-3)

参加費(入場料):2000円 当日座席指定(16:30より座席券と交換)

チケット販売:

*関西学院大学生協(TEL 0798-53-5150)

*チケットぴあ(TEL 0570-02-9999) Pコード 130-125

*ぴあ取扱いのコンビニエンスストア:サークルK、サンクス、セブン・イレブン

*ザ・シンフォニーチケットセンター(ザ・シンフォニーホール内 06-6453-2333)

お問合せ:関西学院宗教センター(TEL 0798-54-6018)

主催:関西学院 共催:関西学院後援会・関西学院同窓会